

あかいかんがいせき 赤井官衙遺跡

—丸子・道嶋氏が治めた牡鹿郡の役所跡—

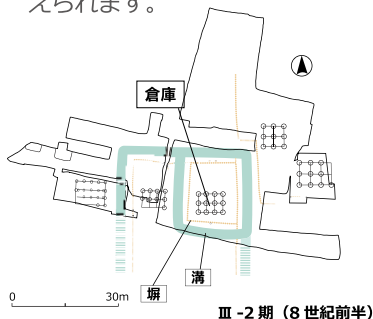
古代の役所は、「院」で実務が行われていました。赤井官衙遺跡では、材木堀によって区画された倉庫院（倉庫地区）と館院（館院1地区、館院2地区）が見つかっています。また、役所を防御するための外郭施設（材木堀と大溝）の一部も発見されており、赤井官衙遺跡は「牡鹿郡家」、あるいは「牡鹿柵」と推定されます。

これまでの調査成果

発掘調査は1986年から開始され、現在まで約30,000㎡が調査されています。掘立柱建物、高床倉庫、竪穴建物、溝などの跡（遺構）が1,300以上発見されています。あわせて、土器や瓦、硯、鉄製品などの遺物も数多く発見されています。

倉庫地区

材木堀と溝で厳重に囲まれた倉庫が発見されています。古代の役所には、税である米を納めた「正倉」が建ち並んでおり、その一画と考えられます。



正倉の様子（早川和子氏 作画）
提供：島根県古代文化センター



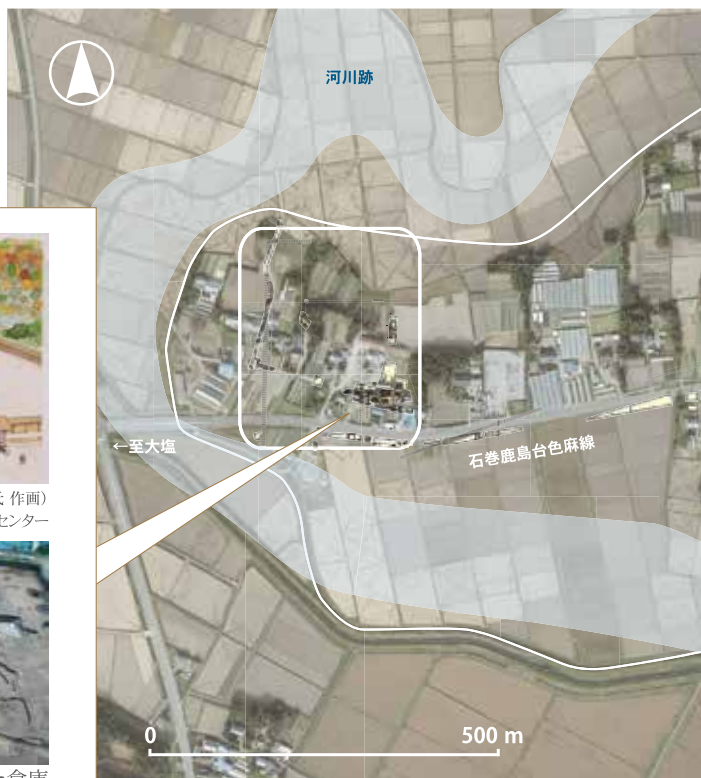
材木堀と溝に囲まれた倉庫

館院1地区

東西約110m、南北約60mの院で、内部からは30棟以上の建物が見つかっています。「舎人」^{※4とねり}「牡舎人」^{おのとねり}と刻書された土器がまとめて出土していることから、当時舎人として都に出仕していた丸子・道嶋氏の居宅（館）だったと考えられます。また、院の南西隅には八脚門^{はっしやくもん}があり、その南には南北に200m以上も続く運河が発見されています。



院内部の建物跡



I 期

～地元の人々によって営まれた集落～

4世紀から7世紀前半（古墳時代～飛鳥時代前半）までの時期です。地元の人々によって米作りが行われ、集落が営まれていました。

▶▶▶ 遺跡の東端や西端で遺構が発見されています。

II 期

～始まる関東からの移住～

7世紀後半（飛鳥時代後半）の時期です。集落の周りに材木堀や幅4mほどの溝が造られました。その規模は東西500m以上であったと考えられています。

▶▶▶ 関東から移住してきた人々の土器（関東系土師器）が発見されています。

III 期

～集落から役所へ～

7世紀末から9世紀初め（飛鳥時代末～平安時代初め）の時期です。丸子・道嶋氏によって集落が役所に造り替えられました。遺跡は道嶋氏の没落とともに廃絶してしまいます。

▶▶▶ 一般の集落跡からは見つかることが少ない遺物が数多く発見されています。

※3：古代の郡役所のおもな施設には、「正倉」「郡庁」「館」「厨家」「曹司」がある。堀や溝で区画された「院」の中にこれらの施設がそれぞれ設置され、役人が実務に当たった。

※4：貴族の警備や雑用に従事した都の役人。